

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 合志市社会福祉協議会
施設名	このみ坂保育園
報告者	園長 北村慶子
住所・連絡先	熊本県合志市須屋 2273-2
	☎ 096-247-6630
	E-mail :kodomo@koshi-shakyo.or.jp

○タイトル（保育計画）

～感性豊かに、たくましく健やかな育ちを願い～

創ろう！遊ぼう！みんなのこのみ坂ワンダーランド

○助成備品（運動備品3点）

- 1 アスレチックブリッジ
- 2 ポイントアスレチッククライミング
- 3 ポイントアスレチック太鼓うんてい

1. 実施した保育計画作成の目的

子ども達が保育園の生活の中で一番大切なのは「あそび」です。この「遊びの充実・遊び込みの経験」こそが社会で生きていくために必要な力が備わるとされています。特に、幼児時期に必要なのは外遊びです。走って転んでかくれて追いかけて登って跳んでと、原始的で何もない山や河原で自由に遊ぶことが遊びの醍醐味でしょうが、全てが自然環境に恵まれているわけではありません。本来は子どもだけではなく、大人や誰にとっても自然の中での運動や外での遊びは楽しく自由なものだと思います。しかし、子ども達にも大人社会と同じようにゲームやインターネットなどで身体を動かさずに、面白さを味わう行為が多くなり、集団遊びの中で獲得するコミュニケーション能力が育たず、親の過度の期待からの早期の知的教育に走ってしまう傾向が見受けられます。この状況から、日常の保育の中で外遊びや運動（運動能力・体力増進）をそれぞれの年齢を考慮しながら、意図的な設定と目的を持って、子どもが本来持っている、自分の身体を使っの遊びの楽しさに気付かせ喜びを味わうことができる機会を与えることが必要と考えて運動備品を使って遊ぶ保育計画をたてました。

保育園に隣接する畑の一部を賃借して築山を造り遊びの活動を取り入れていたこともあり、今回の助成金を活用して新たに遊びを広げられるように、大型のアスレチック遊具を設置することを計画に盛り込みました。子ども達が冒険できる見立て遊びを広げ、創造力ゆたかな幼児期に五感をフルに発揮して、本園の保育方針のひとつでもある「感性豊かに健やかにたくましい子どもの成長を育む」ことが大切であるとの願いも込めて“このみ坂ワンダーランド”とタイトルにしました。保育園だけが独占する遊び場所ではなく、中高生も集える場所としてバスケットリンクも空き地に設置し色々な世代も利用、交流ができるようにすることも目的のひとつです。

2. 具体的な実施内容とその成果と評価

実施計画は、第五次計画まで立案しました。

第一次計画・・・空き地の整備（石ころひろい 草刈 囲い作り）

子どもが自分達の遊び場という意識を持つために石ころ拾いや草取りなど出来るところを手伝い、地域の方、ボランティアの方（団塊の世代の男のサロングループ）に協力を頂き、竹の支柱にロープを張って子どもが落ちないように手作りの囲いをお任せして造っていただきました（竹は近隣の竹山から頂きました）。

第二次計画・・・築山作り（土とヒューム管を入れてトンネルをつくる）

黒土の感触を味わい、泥団子を作り雨上がりの時は水たまりで泥遊びを漫喫しました。



1歳児が自由に遊ぶ様子



2歳児が裸足で遊ぶ様子

第三次計画・・・助成金による遊具購入（アスレチック遊具3点）

異年齢（3.4.5歳児合同）クラスの特徴である、年長児の遊ぶ様子を見て、憧れを持ち「やってみよう」「やりたい」という気持ちを大切に運動遊具に挑戦しました。

☆アスレチックブリッジ

木製の吊り橋はバランス感覚を養うことができます。また、大好きな絵本の三匹のやぎののらがらどんになって吊り橋を渡るドキドキの冒険遊びごっこは創造性も培うこともできます。



3歳児は慎重に渡ります



4歳児は余裕です

☆ポイントアスレチッククライミング

クライミングの登り降り遊びは手の握る力・足の踏ん張る力・手足を交互に動かすバランス（脳と筋力の働きを活かして）を養います。空間部分は低年齢児でも隠れ場所やごっこ的な遊びの場所として静的な遊びの楽しさもあります。



3歳児が踏ん張って登ります



高い所に登ると景色が違います

☆ポイントアスレチック太鼓うんてい

身長より少し高い空間を握力と振れをリズムよく使って移動して平行感覚・空間認知能力を習得できます。少し高度な運動になりますが上手にできる子を見ることで恐怖心が克服され意欲を持ってチャレンジすることができるような配慮をします。年長児の運動能力の高い子どもにはよりダイナミックな動きをすることで満足感・達成感につながります。ただし、一人ひとりの能力には違いがあるので、無理強いすることなく支援の必要な子どもには個別の配慮をします。



5歳児はバランスよく渡り切ります



3歳児はまだ助けが必要

3. 今後の課題と展望

第四次計画・第五次計画については、地域の方の協力や父親の出番として泥団子小屋などを建てる計画を提案したいと考えています。

最終目標は、運動能力の向上・体力増進だけでなく、異年齢保育の中で仲間と関わりながら好きな遊びを楽しみ交流する中で結果的に身体機能・運動能力を育むことにつながることを目的としています。

保育園の運営費の予算では、補助がないと大型遊具の購入も厳しい現状ではあります。今回の第一生命財団の助成金で物的環境を整えることができ思わぬ贈り物になりました。また、助成で購入した遊具の設置がきっかけに、賃借していた土地を購入することになり、園で不足していた駐車場の拡張にもつながりました。

工事期間中に遊具は園庭内に移され設置されると子ども達は、サーキット遊びのように日常の朝、夕の自由な時間に今まで以上に思い思いに遊具に親しむ姿が見られるようになりました。いつも遊具が目の前にあり身近にあることで、子どもにとっては遊びの幅が広がり挑戦する回数が増え無意識のうちに運動能力の向上にもつながっていったように思えます。計画していた築山の中に設置することは今後の様子を見ながら検討したいと思います。

子どもの「遊び」は絶えず変化するものでした。改めて考えると、計画概要書に記載したタイトル『創ろう！遊ぼう！みんなのこのみ坂ワンダーランド』とは、子どもがいる場所に、育っていく中でおもしろくて楽しい所が子ども達にとってのワンダーランドになると思いました。これからも、この遊具を、子どもの心身の発達、成長を促すアイテム（物的環境設定）として保育に活かしていきたいと思えます。



放課後に遊びに来た小学生



園庭内に設置された遊具で遊ぶ



5歳児年長児の記念撮影